



日本財団パラスポーツサポートセンター・日本福祉大学パラスポーツ研究所 共催シンポジウム

「東京パラリンピック大会開催に期待された社会変革の振り返り：大会から4年を経て」

パラリンピック研究会最後のイベントとして、日本福祉大学パラスポーツ研究所との共催にてシンポジウムを開催し、東京2020パラリンピック競技大会に期待された社会変革について振り返ります。

研究者、実務家、行政など多様な有識者を招き、パラリンピックをめぐる人々の意識の変化、障がい者のスポーツ参加状況、パラスポーツに関わる組織体制の変容、残された課題などについて議論します。

討議の内容は、2026年2月発行予定のパラリンピック研究会紀要第25号に掲載します。

日時 2025年11月5日（水） 10:00 – 12:00（入室開始 9:45）

形式 オンライン（Zoomウェビナー）

参加費 無料

お申込み

参加をご希望される方は、こちらのGoogleフォームよりお申し込みください。

https://docs.google.com/forms/d/1CvJC0vFHjV-vfwB4MRDZ130sTFctVhJl_FqfwXua9oc/edit?pli=1

※上記フォームからお申し込みができない場合は、「氏名・所属・役職・その他（取材希望など）」をご記入の上、メールにて research@parasapo.tokyo にお送りください。

- ☆ 開催前日（11月4日）、お申し込みをいただいた方にZoomウェビナー視聴用URLと当日のご案内をお送りします。
- ☆ 当日のウェビナーの録画・録音・キャプチャの撮影はご遠慮ください。

お問い合わせ

日本財団パラスポーツサポートセンターパラリンピック研究会

担当：中島・池田

Email: research@parasapo.tokyo

延與 桂（えんよ かつら）

東京都障害者スポーツ協会 会長。

1984年、東京大学教育学部を卒業後、同年4月に東京都庁に入庁。知事本局参事、港湾局参事などを歴任後、2012年、スポーツ振興局競技計画担当部長に就任し、東京オリンピック・パラリンピックの招致活動に携わる。2014年、オリンピック・パラリンピック準備局大会準備部長に就任。2017年、同局理事、次長を経て、2021年11月オリンピックパラリンピック準備局長。2022年より現職。

小淵 和也（おぶち かずなり）

笹川スポーツ財団政策ディレクター。博士（リハビリテーション科学）。

筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群リハビリテーション科学学位プログラム 博士後期課程修了。スポーツ庁・スポーツ審議会健康スポーツ部会障害者スポーツ振興ワーキンググループ 委員、東京都スポーツ振興審議会委員、日本パラスポーツ協会技術委員会アドバイザー、ヤマハ発動機スポーツ振興財団障害者スポーツプロジェクト委員などを務める。

河合 純一（かわい じゅんいち）

パラリンピアン（水泳）。スポーツ庁 長官。日本福祉大学客員教授。

バルセロナからロンドンまで6つのパラリンピック大会に出場し、合計で金5 個、銀9 個、銅7 個のメダルを獲得。2016 年にはアジアから初の国際パラリンピック委員会殿堂入りを果たす。東京2020パラリンピック大会、北京2022冬季パラリンピック大会では日本代表選手団団長を務める。早稲田大学大学院教育学研究科修了。日本パラリンピック委員会委員長、日本パラスポーツ協会常務理事を歴任後、2025年10月にスポーツ庁長官に就任。

倉田 秀道（くらた ひでみち）

あいおいニッセイ同和損害保険 広報部（スポーツ領域）推進役。上智大学客員教授。

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修了。同社ではスポーツ事業を立ち上げ、アスリート雇用など支援態勢を構築。長きにわたり早稲田大学スキー部監督、全日本ナショナルチーム、JOC強化委員（スキー）等を歴任。ノルディック複合の渡部暁斗選手やパラアルペンスキーの村岡桃佳選手など、オリンピック・パラリンピック選手を多数輩出。現在はアスリートマネジメント、スポーツ人材育成や障がい者スポーツ支援にも携わっている。

齊藤 まゆみ（さいとう まゆみ）

筑波大学体育系教授。博士（スポーツ医学）。

筑波大学大学院体育研究科修了。筑波技術短期大学助手、筑波大学准教授等を経て現職。研究分野はアダプテッド・スポーツ科学、現在のテーマはデフスポーツ・パラスポーツにおける競技力向上、アダプテッド体育・インクルーシブ体育。

櫻井 誠一（さくらい せいいち）

日本パラ水泳連盟 参与・ハイパフォーマンスディレクター。

元神戸市保健福祉局長、神戸市代表監査委員など歴任。1989年フェスピック神戸大会をきっかけにボランティアを始め、以後パラ水泳やJPC運営委員などを中心に活動。リオ2016パラリンピック大会日本選手団副団長、東京2020パラリンピック大会日本選手団副団長を務める。

藤田 紀昭（ふじた もとあき）

日本福祉大学大学院スポーツ科学研究科教授、博士（社会福祉学）。

筑波大学大学院体育研究科修了。徳島文理大学 専任講師、同志社大学スポーツ健康科学研究科 教授などを経て現職。研究分野はスポーツ社会学、障害者スポーツ論。現在、スポーツ庁スポーツ審議会「健康・スポーツ部会」委員、および日本パラスポーツ協会技術委員会 副委員長。

松尾 哲矢（まつお てつや）

立教大学スポーツウエルネス学部教授。博士（教育学）。

専攻はスポーツ社会学。九州大学大学院博士後期課程人間環境学府行動システム専攻単位取得退学。東京都スポーツ振興審議会会長、スポーツ庁部活動の地域展開・地域クラブ活動の推進等に関する調査研究協力者会議委員、スポーツ庁スポーツの実施状況等に関する世論調査検討委員、日本スポーツ協会指導者育成専門委員会副委員長、総合企画委員会・国際交流専門委員会委員、日本レクリエーション協会理事、日本レジャー・レクリエーション学会理事、日本スポーツ産業学会理事など。

三井 利仁（みつい としひと）

日本福祉大学大学院スポーツ科学研究科教授。博士（医学）。同大学パラスポーツ研究所所長。日本パラリンピック委員会強化本部 元本部長。アトランタ1996パラリンピック以降、東京2020パラリンピックまで陸上競技にコーチ、監督、運営サイドとして関与。

山口 一朗（やまぐち いちろう）

（社福）大阪市障害者福祉・スポーツ協会スポーツ振興室長 兼 長居障がい者スポーツセンター参事。日本パラ水泳連盟理事。

白馬・岩岳スキースクールの指導員を経て、毎日新聞社へ。プロ野球・近鉄やJリーグ・セレッソ大阪、全国高校ラグビーの担当記者や、オリンピック・パラリンピック室委員などを務めた。レアル・マドリード大学院のオンラインコースでExecutive MBA in Sports Management取得。2024年より、国際親善車いすバスケットボール大阪大会実行委員会事務局長を兼務。

渡 正（わたり ただし）

順天堂大学スポーツ健康科学部前任准教授。

筑波大学大学院博士過程を単位取得退学後、早稲田大学スポーツ科学学術院助手、徳山大学経済学部准教授などを経て、2015年より現職。専門はスポーツ社会学、障害者スポーツ論。車椅子バスケットボールのフィールドワークをベースにした研究で博士号を取得。